所家名彙

世間無類

へ遠3
656
8

門 へ 選13
號 656
巻 3

明治三八年九月十一日購求

世間豆腐氣質卷之三

一 ゆんゆうふ角とのぶてとおかあと毎月ゑめでごへ
亭主ゞ愛妻婦を

附り新しき中居ゝ女房ゝ家の主人ゝ公家の姫君
田舎者ゝとそまゝくの色書にめでゝ墨色の里。田乘繩乘
ゆつぐ作を一ゝさん月立ござん町の色ゝに出侍屋の角ゝ乘ゝそ
ゝ乘屋をけるゞ亭主角ゝ乘ゝ生ゝ立のゝ乘屋ゝそもゝく
新ゝ月のゝ町人ゝ百姓機
嫁ゝもけふゝ女房ゝ侍のゝ人ゝ山ゝ乘
屋今辭ゞめゝく乘ゝ角ゝに仕者ゝ也ゞ一切氣
ゝ角ゝゞゝ達ゝんゝ賣ゝ乘ゝ家ゝ切ゝて
中居小女ゝゞゝ人ゝゞ婦ゞゝ乘ゝ屋ゞ角ゝ

生涯家のうとうのめ下畢さあとすうるをきらひ
かぐらい流くうとあふしーされいうまどこえ分のるられ
で育うもあ波の上那流二三人いあまどさのく後の流
あ弁といつぐもるく。家丈おしてうくくも物の大るる書
とあ家性女言葉くのたぐめ今と色でいるぬぬぬで
つちく面白いうんご新四とてい上那流とたくとのと
物書工夫とめうし。ある附ととうるおうく大坂よ運ちと
いうあ屋と新四て美事とうるふさうさ面よ知ら
えしうる和ぎれ。色でるちとあぬるい上那流を教
百人あふる通大うんの紙とのうけーるハを流ー達分
ままぐくのせるうくあ今を運屋ハ古ぐ山をんとりて
ぐでるあてるも新四ちれるのう。うんぐるるあ物ぬぬぐ

ものとまあ兄分那ちけうぐうとくんうくくーを女房に四
うるく。それくるもうぐいうあうあぬで一ちく新四ちを
いくくく面白い工夫と分くぐうんくあるる先ぬてくくをるる
るあ新が通の白いあごまるる九新くいい事ハ山里よなをち
らあるのハ年。又るれくぐ新もるわど九い新じやぐる猛で
くくあきを氏かくさあのふうぐ一ハ工夫であいりもくぐ
まてく九い新。正でるまてくくひ分ーハ今ある中屋山三
月るをおううせてくるこのの白いものあるずいぶん九新を
中屋とうくこちの家名と濃九屋糸好ーぬくるれハ
ぬをあくるる茶。屋茶をるるるを行うまでくるる
まん九ありてくいおあれ紙れとる巡る屋ハるんくでる
くくで。女房いそく板でくまくいい工夫とくひ分うち

やんごとなき坂の道やちかい又樫の二階まるうちぎ
ちかい家のふちんをのこらえんをはぢふえを
ぶづくひをるよい藤田さんあまばをいい門づくりて拵
すぐこのはれ二三人のる法人よ出るが山三人要
きく色ハかりろい藤田じや一ぢんろハろんく
あるこちろ三人ぐれ座の世話てこらせん家と入まど
くろうけとろやふろんせとしてろくるあ角さん
拵ぐ音を不語て付の一部屋の大座敷とうの敷き
よ山出すまべ山家ふちんをのこちろ。是ハろる
ま脱一ろう山家ふちんして青代と宝く貸ろて
ちろ十又系拵色よ北屋敷ろう求しを山座敷
とろぐ拵て達山法付の奥座敷と大部大工

を入る丸ろ遠けろ敷の拵ど九八要敷一ろ六要
二ろ二ろるトるころるづの座敷名丸ろ遠要と別よ
あたんまんぢろと三ろ切さ仏拵よ寸くちけ石ま
要まて八要のろるる六要のろる敷つろ。丸いぐろに
要ろどとろて三けろ山お樫のち俵ろあるに樫入天井
る丸い中に出要のある樫のちぢんろ入樫ろく
ろう二階の立稼る樫るまん丸よけづせてつぢ門
こ丸ろ立。丸まこい瓦石ろ水鉢とまんく樫九要
あろひハこんんるまろ花るぐの樫色とあらひ月
五六千枚の敷代よ樫て二月の敷拵ろて備けるぐ
角系ろやまん丸やろ系好ろ敷ろ人刺鬱て色へ
ろろぐ。室座敷拵まん拵ハやに及ハど取ぐこと

頭巾ものこそどまん丸あり て京ふ丸い表を丸無武
義理丸まん月を丸がさ。花簪ハ丸い。座津燒の壷よ
重箱よ白玉樓の行ゞ丸いやうと十又たうらを
出月の十四日望月を行ひくの見世ゞ紙屋那丸張
こゝろを中丸どこ人義を二人うゝ。さゞ。ゞ。ゞ。も
出ゝうゝもあるゝの京丸坂の行要ゞはゝゝ丸も
紫屋のゝ織よりゝい新る女をかせゞ家好まゝ
ゞ新のまゝふゝ地ゝ屋ゝ小ゝゞ丸新ゝで今春月ハ
人ゝをゝゝさ丸新連丸幸ゝ新理人下男も丸い新
ゞゝゝて芝もゝしゝゝにまん丸る男女武亜付ゝゞ
行ゞ仕合ゝゝゝゝ新を逢ゝ二文
ゝまん丸ゝとゝひ付ゝ紙屋那の張新武

つまん芝祝まてふゝさゝうゝも大ゝる仕合ゝ二人の馬那を
宮ゝ年みゝて大ゝふ魯を煙ゝ枚京町中丸通利を
丸けるがゝ京中京の祝屋那ゝ新る人ゝが芝ハゝゝゝい
はゝを茶屋の酒砂ゝハゝ人ゝゝ舞毎新丸来の酒
ゝ丸まん丸屋の雲間。祇園所て一徳ゝいゝ色ふゝゝ人ゝ
大ゝ月ゝのまゝゝゝが教百人ゝゝかる女ゝ丸ゝゝゝ人
まん丸ゝ色の白いゝのある京人ゝゝん。ゝ女帝ゝハ
ゝゝの屋敷人おゝゝど条ゝが丸丸ゝ新丸丸ゝ丸ゝ
徳ゝも云ゝわゝゝ丸ゝづゝゝの丸屋人丸新る女ゝゝと二人
ゝゝゝゝ

まん丸や
ろんぐーが
ろんぐーの
まん丸ごとの
ろんぐーさ
ちょうちょうと
ちょうちょうの
おとこう
ぐーぐ
ぐーぐ
のもり
ちん
お供らぶ
おいでーぐー
ぐーぐ
ぐーぐ
ぐーぐ

あを用あそふ遊うけるが。山又一徒が強剛京中の方坂
つと宮人おのるこめる酒をあい且敷分が耳く入ときく
京へのぼらくまん丸屋であうひける。京まんまけ敷亂
なた坂のげんさと敷が加んしんしてくるも遊廓もあるくろ
くろがまん丸やハ家号が同あるくろくるくるくろ
丸る家の分而ハ二号藤檜人今檜屋のあ且敷分が表人合
て山強剛。云合ときと云合しうちうちひるもうちうち紙
のあと郭十人。梅もこるく丸い新なを屋且敷丸新な
久こを踏く一人で佐よつまて京人のぼり来ぬが而てあ
そぶ新田源ともあてまん丸屋人行で新しも死なも
抵で座くハもこうあて面白うるつてやらうんで座人
踊とまくやや。丸いうちうで中居があとくくあ月のを人つ

うくておち分よ而丸の後丸むをあつてあるで京
ま兼ぬが抵ぶくごとあり京まけりく紙て是ハあるこい久
のおあ指ハ十人なくそうてまるいい新なを且敷流しや芸廓
をあくおを重抵ておあて屋敷と丸うおやくつくこうるれ
丸い屋敷と一石いうて十人の丸新なあとをとをこ
中居も藝をも屋敷くお一徒ら而人くらせしう。
あるあくをどまん丸るうくうくいまんぐちうめんぐんの
藝兼とかうるくく十人すいく屋敷ををびあうくを
丸くくをこちくとうくくもあ。をとうんそも天井とうくくも
そくくくうちが丸い往よくくうんを緑れまん丸屋。丸い平
合点であろ亭をも藝平をあんまを丸をふあを遊をて屋
くを且ハ丸いまるくまん丸をふあ遊をて屋
丸をあくをぐくくびくう

(二)

長いおあれ酒の酔ふてうろついてゐる者の注文さしづの先へ夫婦らしく

附りふまつりうく京の一徳さすがへ拙ど和ふ小ゐる難波の通

拙も難波とあまびがる拙。京姫姉ぎ九いとつ二一ち武

ゐひ付しうま京大坂へ云よ及ひど江戸老婆もで中の人

て誘元ふ誘元の旦那へのうとあよ引ける

二ぶん仕ちそびうちゐ金沢とのう金沢の

物産費と又借りうて先も九産費よ方つ入るう

おまう大坂とのつけすうへ世とのそ〇ゐもるけるハ

世の中れ人ふまうゐうう大坂市れ例色

て問屋〜のうちの旦那金沢ふ家入まれさい

但ごとしいびさ商人の一つ中ゐ東舎けとて京の

まん九屋が洋刺出けるが只世ふ大坂の逢屋と一

ふしまで誘ゐが下紙な。ふすが京行ふて雪う

おうしいふ世ふ誘ゐがふゐ。逢ふいて先生一拙逢

ふ立ていまうしいふまん九屋ゐ拙ゐ九う角れるひ

負で祇園ゐを立。ゐのふいるゐハゐうふ拙ぢや

が先ハおうしてうぶふて今三ケのはでかゐると

いうをゐて大坂ひいゐ先ゐ若れまいゐ旦那むまうが接ど

立。先年京大坂の付合問屋ふ大佛を立せて見

ふ〜行ふせんと京ふ〜いふふ。ふ石松の帆柱を材く

大坂ふを付て一年京人ふ世ふ今度の逢屋を拙

ふまて〜ハせんう京びで人で先ハ京人へのぼりて九ふし

ゐが世人あそびふ行ふをとうふせてこゐ〜変拙この

おぼえ候。さて年ハ九月華燭ようけて山こまちひとり船ハ人
数十云余くく京人あそびよのうち新田。宮屋ハ其外
中又京人の内ちを山ハ人ちうかたうまけハ扇を
そらふうハ人なるべけ〳〵ゆめ出い新ぶ出まげうう
屋又ゑるやうなる大京外ゑるが傍ぬぎんよりをどりと
新田と吾掛中にたちを地で京へさてのぼる縁と
りしくまん九屋へうりあいて船びよ行けるが。
京主参好又大坂ちを宝なおあと恍いさんでおむ
ひ。先二階座敷へとて夢屋も花車もちひの
あまりふ既を九要ようり付てひさく天言よしへく
いつくおちの新をろくくえど。参好が二ういちうと人
りしきの田さ小日光の上那京

ちを又指ぶまるい新ぶおあしやるうひうやくハあるとと
うく九うえ人ちとこちの福の祢指。出イやは角ち指ハ山
家月でれ書紀。げうう屋でとこちれ月でん京今祢じや
出イやうしいハいやく兵九ちまるうれと。打うう俗狂
ち酒横姫と相ふれよ酒ふにのりて一人ちと。板月多
屋三長沈ちうにおお二ういんちうて姫産引せらうく
のちん切て八人ちうげ〳〵上那京の新をうえ屋でとれもく
ちちイかぐふく〳〵よけうれ中ち新付。ちうごをちう
ちりふ大ちる新でいうと一人ちが二階人中ゆ人中
居ふやうがふあせうげう京ちは上ちは月人新ちう
切車ちこのぐくにちて初新面うう屋が去やうけるが。
あハ行を中をうず兵ぐさちふ相ふでれ面にいうく

酒をのこしてやにうれあるやうに。あるこちらへまるへのがしまん
まるがめでこしいて毎日あを勢こけまん丸屋うれと。
亭主が言あれふさやうう丸いと云事をこんなが傳
云ひどもいとハ粗いこれどもまーらさーしてそろ〳〵
まん丸なうつくしめとーこうあ出いのやは四角な物とでー
そうが。下にある八人のあるそろ〳〵酒の酔よつまそひろ
ど云あーこなり円ハ丸いるものをもろこふとまるさが見ハ出
あをぬそうるそ出こハ又ぢ云事で出ィや四角なあるも
こちれ円でんぢん弁じやと耳こそういそうるそ大坂
りのをあ世のおや。京ハ新めが粗波でを大波の市れ
うへの屋敷中間ハ江戸でいあめ出ィ新なあがいやうー
ぢこうへとずーてこ。ちうへとあ立てうへさめ。ぢんぢん弁を

うをあるあーこけぢんでハ大坂へのこうへるあうとへてこれて
一ぢんぢ豆めけ出ィ新の立中にしてくまとうあ紀おとと。
又二三人ぢ新つてあそびよまて美食神といこれてハ
ぢまを大坂へうを豆め。町へをうへ円ていはうけを立てを
らひこうるまん丸屋とうこ。ぢーこけ中さ候の中にせひべ
掘がかあと。船杉のうを出ぢでも掘ぢ大坂人がうをぢぬいで
八人そうへの出ィ立ぢうんのこをるぢでを出ィ天宮よこち
まうしーうを新ハ志河ういあこのあう白凡よ首む入さ
こをひ行程中まーうあうを高めて度安のこうどう。
ていーもも花なも酒とうを紀こまとりこあをうこく出い霧
けーまーこあやまるまを。九ィくーぢ口を世よ新まーて
のけこれぢふぢをいゆるーー下こうまを。ぢこいいうこに新を

ごるくも
きんたやしやそ
そのうで
もんもうして
ふくれ
こふかでなきれまそ
ことも
るふいふぞ
じじすひゃうふいの
てすもん
ハるやを
たくさへ
それふくろの
つゝみ
よるたに
ゆふさと

行まーますやうに仕まーてけちそう中まん。是ガ町方の
ここに始まりますと申しさまん九屋ガ九てごらに
始まりますと申合せて泣つるびこいどっ中ー
すこーも宮入まで中ヨ一人のりふハ行始た行の色にて
ちそうやーと云ーハ申の女ヨと八人ーんで来れ夫
ーてう爲せんをのぞむ女ヨ申ーいりハ色白ーしてこさめて
まーれ私のこいをいどんをぐれて出イ新ヨ中結ぶ素人と
八人そろへてーんでくせそ出ガ方ヨ申ぬと町方人行ヨの縁
影行ーーぞ一ー対て是を云おさんハ大坂ヨ新向せー
そふのこそ尾。亭主も是ふハ黄熱さんやうヨ素人ハで
ぐうませあーいと町方人行ーふーー云四人乗車ガ滅ぐそ
二ア一徳の月色人人乗ガ月ヨ月ア女のあーんん。身ぬガ行

町方ーーーーーあをーーーーーガ八人どーーーーーーーーを
ーハどんヨ女中九ーーーーーーーーーーーーーーーーた
ーー。ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーに
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーに
んーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
今ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
八人ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
一徳のまーれ男ガ声イ出イ新の女中ーん八人ーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

のぞきたるに、ふとりたる八人の中に、
髪もせいの長さの白いさまなる、
ちいさくして、ぞうりをはきたる
あいさつをして、ぞうりをぬぎ
ぞうりをぬぎて、はだしにて
姫はさしもの丸いちうしゝ
ものけるがごとく、喜をも花をも
ちまいらせ、ちいさく一徳ぐ
てぞうりを一徳ぐ
あるじ、ぜんぜんと喜をも花をも
ぬぎ、ぞうりをぬぎ、はだしにて
のおもしろき屋がまへ、
新なる人、初めて、
屋がおもて、一徳ぐ
こう。魚ぬき、ぬかんして
その中居、ふはうをして
ちゃん、いそいで、
こゝ、大坂のあ
見つけて、
うぐりの
愛嬌なる江戸ものを

世乃且那亂賞者そこ之絵